

「歴史日記」の実践が  
生徒の歴史的思考力に及ぼす効果の事例的検証

細 貝 采 可  
榊 原 範 久  
杉 山 立

## 「歴史日記」の実践が 生徒の歴史的思考力に及ぼす効果の事例的検証

細 貝 采 可<sup>※</sup>  
榊 原 範 久<sup>※※</sup>  
杉 山 立<sup>※※※</sup>

### A Study on the Effects of a “Historical Diary” on Students’ Historical Thinking Skills

Ayaka HOSOKAI  
Noriyoshi SAKAKIBARA  
Ryu SUGIYAMA

歴史的思考力は、これまでの社会科教育の文脈の中で育成の必要性が謳われてきた。しかしながら教育現場において、育成のための十分な実践やその検証がなされているとは言い難い。本研究では、中学校社会科歴史的分野で実践されている「歴史日記」に着目し、歴史的思考力にどのような効果を及ぼすかを検証した。検証した結果、歴史的思考力の5項目のうち「歴史的な変化を因果的に理由付ける力」、「歴史的解釈を批判的に分析する力」の向上に効果があることが示唆された。

【キーワード】歴史的思考力、「歴史日記」、中学校社会科、歴史的分野

#### 1 はじめに

##### 1.1 歴史的思考力の定義

学習指導要領が改訂され、社会科歴史的分野においては、社会的事象の歴史的な見方・考え方の実現が目指されている（文部科学省、2017）<sup>①</sup>。歴史的な見方・考え方とは、「社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」である（文部科学省、2017）<sup>②</sup>。また永松（2017）<sup>③</sup>は、歴史的思考力を中核にして歴史的な見方・考え方が育まれる、と述べている。このことから歴史的な見方・考え方を育成するために、歴史的思考力に着目

する。

先行研究から、歴史的思考力の定義は多岐にわたっている。「考える歴史授業」を提唱した加藤（1991）<sup>④</sup>は歴史的思考力について、①多くの史料や確かめられた事実に基づいて考える能力（実証性）②論理的・統一的に考える能力（論理性）③自分の知識や感性をつかって自分の頭で考える能力（個性・主体性）、という3つの要素を挙げている。また、鈴木（2015）<sup>⑤</sup>は歴史的思考力を「歴史学の研究によって導き出された知識と方法に基づいて、歴史事象及びその解釈を批判的・論理的に捉え、歴史的全体性の中に位置づける力であるとともに、現代社会の在り方を問い直し、未来の社会を構想する上での基盤となる知的能力である」と捉えている。また、他の定義に関しては表にまとめた（次頁表1）。

※ 上越教育大学大学院

※※ 上越教育大学

※※※ 愛知県西尾市立平坂中学校

表1 歴史的思考力の先行研究のまとめ

池尻ら (2012) <sup>(4)</sup>	史料を批判的に 読む力	歴史的な文脈を理 解する力	歴史的な変化を因 果的に理由付ける 力	歴史的解釈を批 判的に分析する力	歴史を現代に転 移させる思考力
世界史ナショ ナルスタンダー ド (1994) <sup>(2)</sup>	年代的思考	歴史的理解	歴史的分析と解釈	歴史的探究力	歴史的論点の分 析と意思決定
梅津 (2010) <sup>(3)</sup>	資(史)料をもと に、事実を判断し 記述できる。	事象の原因、条件、 結果や、時代の社 会の意義・本質を 解釈し説明でき る。	事象を評価的に 判断できる。	論争問題や論争 場面において望ま しい行為や政策を 根拠に基づいて 選択できる。	歴史的な事象に関 する言説に内在す る価値・立場を吟 味できる。 言説の主張の手 続き・方法を吟味 できる。
後藤 (2014) <sup>(4)</sup>	時系列的思考力	分析的思考力	価値判断・意思 決定力		
山路ら (2018) <sup>(5)</sup>	史料を読み取り、 内容を把握・理解 する力	歴史解釈を批判 的に分析する力	時代構造の変化 を把握する力	歴史を現代に活 用・転移させる力	

本研究では、これまでの歴史的思考力に関する先行研究において引用の多い歴史的思考力が5項目で分類された池尻ら(2012)<sup>(6)</sup>を定義として用いる。なお、歴史的思考力の定義に関しては、池尻ら(2012)<sup>(7)</sup>の定義における「歴史的な文脈を理解する力」を除いた4項目で構成されているものが多い。しかし、本研究では、池尻ら(2012)<sup>(8)</sup>や梅津(2010)<sup>(9)</sup>の主張から、歴史的な文脈を理解する力は必要であると判断したため、5項目で分類されている池尻ら(2012)<sup>(10)</sup>の定義を採用した。

## 1.2 「歴史日記」の実践

滝沢(2015)<sup>(11)</sup>は、歴史的思考力の育成について「主体性を欠いては成立しない」と述べている。また、鈴木(2015)<sup>(12)</sup>は歴史的思考力の特性をまとめており、「歴史的思考力は、探求的・主体的な知識構成及び、解釈型の歴史学習を経て形成され高められる」としている。このことから、歴史的思考力の育成は主体的かつ、解釈型の授業実践を通して行う必要があると考える。

これを踏まえて、社会科歴史的分野の授業実践の1つとして小林ら(2020)<sup>(13)</sup>が行っている「歴史日記」という授業実践に着目する。「歴史日記」とは、中学校社会科歴史的分野で実践されている「ある時代における民衆(縄文時代を生きた人々から江戸時代の農民、明治時代の士族に至るまで、社会的特権や政治権力を持たない人々)の生活を想像し、その一人になったつもりで生徒に日記を書かせる」という実践である。なお、どの単元でも実践が可能であり、今までの実践例としては、縄文時代の単元での「原始人日記」(小林, 2016)<sup>(14)</sup>、明治時代の単元での「文明開化日記」(中妻, 2019)<sup>(15)</sup>などがある。

「歴史日記」の実践を通して、小林ら(2020)<sup>(16)</sup>は「歴史日記を書くことが、情報の補充や知識の確認、概念の再構成などを必然的に促進する」と述べている。また、中妻(2019)<sup>(17)</sup>は「実践内での生徒の交流の結果、深い学びにつながっていることが考察される」とも述べている。このように、「歴史日記」と歴史的思考力の関係性があることが推察されるが、未だ「歴

史日記」の実践がどのような効果をもたらすのかは、明らかにされていない。

## 2 研究の目的

本研究では、中学校社会科歴史的分野において、「歴史日記」の実践が、生徒の歴史的思考力に及ぼす効果を明らかにする。

## 3 研究の方法

### 3.1 「歴史日記」の実践の流れ

「歴史日記」の実践は単元のまとめ学習として行う。活動は「歴史日記」を記述する時間、クラスメイトが記述した「歴史日記」を個人で読みベスト3を決める時間、「歴史日記」を班で読みベスト3を決める時間、と3時間に分けて行う。3時間目の最後には個人の最終的な意見を集計し、クラス内で「歴史日記」のベスト3を決める。

「歴史日記」を記述する際の基準は、「歴史的事実が記されているか」、「物語性があるか」、「ユニークさがあるか」の3つとされている(小林, 2016)<sup>24)</sup>。この3つの基準は、「歴史日記」実践開始の冒頭に学習者に伝える。学習者はこの3つの基準に沿って学習活動に取り組む。なお、この3つの基準と本研究で定義した歴史的思考力の5項目を比較した場合、次のような関連性が見られる。「歴史的事実が記されているか」は「史料を批判的に読む力」、「歴史的文脈を理解する力」と関連している。「物語性があるか」は「歴史的な変化を因果的に理由付ける力」、「歴史を現代に転移させる思考力」と、「ユニークさがあるか」は「歴史的解釈を批判的に分析する力」と関連している。また、「歴史日記」を記述する際は、歴史上の偉人ではない人物になりきって書くこと、自身の立場を明示して記述することを指示した。いつ、誰が、どこで等の具体的な出来事について記述するように、といった旨の指示は行わなかった。指示をしなかった理由として、小林ら(2020)<sup>24)</sup>の「歴史日記」の実践例では、立場を明確にする、という指示のみであり、本研究でもそれを踏襲した。

実践では「歴史日記」を記述する際に、A4サイズの自由記述式のレポート用紙(以下、レポート用紙)を使用し、記述量は自由とした。「歴史日記」記述時は、個人作業とした。また、活動中に生じた活動に関する疑問や教科書等参考資料の内容についての疑問などは授業者に質問する、という授業スタイルで行った。さらに、活動中、授業者側から「歴史日記」の内容に関する提案などは行わなかった。

次時の「歴史日記」を読む際には、筆者がWordで打ち直し、匿名化したものを印刷し、学級全体に配布した。個人で匿名化された「歴史日記」を読み、「歴史的事実が記されているか」、「物語性があるか」、「ユニークさがあるか」の3つの基準に沿って個人のベスト3を決めた。なお、「物語性があるか」、「ユニークさがあるか」については学習者個々の価値観とし、授業者側から例の提示などは行わなかった。最終時に班内でベスト3を決める活動の際は、3～4人班で行い、個人で決めたベスト3を基に改めて決めた。その際は、多数決にならないように、3つの基準に基づいた意見で話し合っただけで決めるように指示をした。その後、各班で決めたベスト3を理由と共にクラス全体で共有し、それらを踏まえて、最終的な自分のベスト3を決めた。その個人の意見を集計し、クラスの「歴史日記」ベスト3を決めた。

### 3.2 調査の概要

#### 3.2.1 調査時期

令和3年1月

#### 3.2.2 調査対象

愛知県公立中学校1年生58名

#### 3.2.3 調査単元と展開

教科：社会科歴史的分野 平安末期～鎌倉幕府の成立 全7時間

教科書：東京書籍「新しい社会 歴史」  
pp.66-75

次頁表2に授業展開を示す。授業者は中学校社会科免許を所持する現場経験15年以上の教諭である。本授業者、並びに対象生徒は「歴史日記」の実践を行ったことはない。

表2 授業展開

時		学習内容	分
1	通常授業	「武士の成長、武士の政権の成立」	50
2		「鎌倉幕府の成立と執権政治」	50
3		「武士と民衆の生活」	50
4		「鎌倉時代の文化と宗教」	50
5	歴史日記の実践	①質問紙調査（事前）	5
		②「歴史日記」を説明	5
		③「歴史日記」を記述	40
6		「歴史日記」を読んで自分のベスト3を決める	50
7		①班内でベスト3を決める（写真）	25
		②班内の結果を全体で共有	10
		③クラス全体のベスト3を決める	5
	④感想用紙の記入、質問紙調査（事後）	10	



写真 班でベスト3を決める様子

本研究では、全7時間中、1～4時間目は教科書を用いた通常授業を行い、終末3時間に「歴史日記」の実践を行った。そのため、終末の3時間に着目する。通常授業とは教科書の内容に基づく、知識理解を中心とした一斉指導型の授業であり、「歴史日記」を記述することを意識して行った授業ではない。また、授業者は「歴史日記」を記述する際に意識する立場に関しても、通常授業内で特別に取り上げなかった。

平安末期～鎌倉初期には民衆が日記をつけるという習慣はなかったが、小林(2016)<sup>25)</sup>の「原

始人日記」のように日記を書くという習慣がなかった時代でも実践されていることから、本研究でもこの時代で実践を行うこととした。また、本時は「歴史上の偉人ではない人物」という指示のもと「歴史日記」の記述を行った。この単元は民衆のことだけでなく、貴族社会から武家社会に切り替わっていく時代の中で、影響を受けた人々にスポットを当てることで、より単元の理解が深まるのではないかと筆者と中学校社会科免許を所持する現場経験15年以上の大学教授で協議し、民衆以外の人物の日記の作成も許可した。その結果、民衆以外の立場（固有名詞の登場しない一般的な武士、貴族、地頭など）を示した生徒もいる。

### 3.3 分析方法

#### 分析1:「歴史日記」の記述内容分析

学習者が記述した「歴史日記」の文章から歴史的思考力の表出を検証するために、本研究の定義を基にレポート用紙の内容を無作為に抽出して分析を行った。分析を行うにあたって、質問紙調査の5項目からなる質問事項に対し、学習者の反応形式は「1.当てはまらない」から「4.当てはまる」の4件法で行った。質問紙の

回答を，“1.当てはまらない～4.当てはまる”を1～4点として得点化し、事前と事後それぞれの得点の平均値を算出した。さらに、平均値3.20と標準偏差(0.45)を用いて、平均値+0.45の3.65以上を上位群、平均値-0.45の2.75以下を下位群、それ以外を中位群とした。これを基に、上位群から1名、中位群から2名、下位群から1名を無作為に抽出した(順に学習者A, B, C, Dとする)。なお、各群の人数内訳は表3の通りである。また、記述分析は、中学校社会科免許を所持する現場経験15年以上の教諭1名と第1筆者の2名で行った。「歴史日記」の記述内容のうち、歴史的思考力の5項目の力が関係していると考えられるものを挙げた。

#### 分析2：感想用紙の記述分析

学習者の感想用紙の記述から歴史的思考力の表出を検証するために、分析を行った。なお、

分析方法、分析対象の学習者は分析1と同じである。

#### 分析3：質問紙調査による分析

小川ら(2017)<sup>(26)</sup>の「歴史的思考力に対する意識」を参考に、記名式の質問紙を作成した。質問項目の作成は中学校社会科免許を所持する現場経験15年以上の大学教員1名と、授業者の教諭、第1筆者の3名で行った(表4)。なお、小川ら(2017)<sup>(26)</sup>の質問項目は、池尻ら(2012)<sup>(28)</sup>の定義との関連性を見出せると作成者で協議し、質問紙調査として採用した。

質問紙調査は授業実践を行う前後の計2回実施した。回答方法は“1.当てはまらない～4.当てはまる”とし、頭の数値を得点とした。そして、項目ごとに一要因参加者内分散分析を行い、意識の変化を検証した。

表3 各群の人数内訳

各群	上位群	中位群	下位群
人数	10	38	10

(n=58)

表4 質問紙項目

1. 歴史の授業では、学ぶ目的に合った資料(今勉強している内容に関する当時の資料など)をもとに、歴史上の出来事を学んでいる。
2. 歴史の授業では、歴史上の出来事を学ぶとき、その出来事の原因、条件、結果やその当時の社会の様子などを考える。
3. 歴史の授業では、歴史上の出来事について、自分なりにその出来事の価値(良いか悪いかなど)を評価(判断)して考えている。
4. 歴史の授業では、歴史上の対立場面において、それぞれの立場を理解し、それについて自分がどう思うかを述べることができる。
5. 歴史の授業では、歴史上の出来事に関する様々な主張の流れ、背後にある考え方を批判的に見ている。

#### 4 結果と考察

##### 分析1 「歴史日記」の記述内容分析

「歴史日記」の記述内容分析の結果と考察を以下に示す。なお、学習者が記述した「歴史日記」の立場の内訳は表5の通りである。

表5 学習者が記述した「歴史日記」の立場の内訳

立場	武士	農民	貴族	地頭	領主	鍛冶屋	坊主
人数	34	15	5	1	1	1	1

(n=58)

1月21日(木) 晴れ

私は、貴族の妻、お林(りん)と言います。  
 ①世の中の政治が大きく変わっているから、日記をつけようと、思います。②今までは、上皇が政治を進め、天皇が不満を持った政治をしてたけど、天皇が「もう、我慢できーん!!」っておこっちゃってさー、それで武士っていう人達を争わせて、平氏と源氏っていう人が大活やくしたらしいよね。おしゃべりな召し使いが言っとったわ。でも、平治の乱で、平氏が勝って好き勝手政治したんだよねー。いや、本当腹立つ〜!太政大臣になって、平氏以外は人間じゃないって。意味がわかんないよね。で、③源氏が平氏を滅して、鎌倉時代が来たんだよね!源頼朝ナイス!!④しかも、武士は武士。貴族は貴族で分けてくれたんだよね!これで私たち貴族も活やくできる時代が来た〜!武士さんは、御恩と奉公っていう結びつきで、敵がせめてきても鎌倉幕府を守ってるみたい!!でも、源頼朝さんが死んでからは、幕府が弱ってきちゃって後鳥羽上皇が「俺の時代がまた来るはずや!幕府、倒してしまえ〜!!」なんて言って倒そうとしたけど、北条政子ちゃんのお陰で武士が団結し、上皇に勝ったんよ!!私、政子ちゃんみたいな人あこがれちゃう〜!それからは、⑤京都に六波羅探題をおいて、上皇や貴族がなにかしないようにみはってるみたい!そのほうが幕府は安定ね!!それと、私の夫が言ってたんだけど、御成敗式目(貞永式目)という武士の法律がつくられたらしいのよ!◎まるで、聖徳太子の役人専用の十七条の憲法みた〜い!そうそう!今日

は、町に行って農民や地頭の様子を見に行ったの!⑥地頭は、領主たちと同じくらいの地位について、びっくりしたわ〜!(以下略)

上記は、上位群の学習者Aの「歴史日記」の一部である。学習者Aは下線部①から、今回の学習範囲であった鎌倉幕府の成立までに、世の中の政治が大きく変わっていることを理解している様子が分かる。また、下線部②~④、⑥のように時代の権力の中心が変遷する流れを、具体的な人物名や、地名を挙げながら記述している。さらに、下線部⑤では、飛鳥時代の十七条の憲法について触れており、以前に学習した内容と比較して意見を述べている。

これらのことから学習者Aの「歴史日記」からは、歴史的思考力の5項目のうち、「歴史的文脈を理解する力」、「歴史的な変化を因果的に理由付ける力」の表出を見取ることができる。

おはようございます。自分は武士という役の者ですが今日の1日を見せたいと、思います。(中略) そうですね!!⑦源氏、平氏を知ってる?源氏は東に勢力を広げ、平氏は西に勢力を広げた武士の人達なんだよね。すごいよね、でも平治の乱っていう戦いで戦うの実は僕も平氏の方の人だったから戦ったよ、恐ろしい。⑧それで平氏が勝ってからが少し悪いんだよね平氏、イキッてんだよな自分はそういうことなら源氏につきたいぜ。おっと長くしゃべったなすまん。しかも、もう時間もおそいから夜ご飯にするか。おいしかった。まあ自分の1日をまとめると、トレーニングして農民達を見て、年貢を納めるっていう感じかな、1日おつかれさん。じゃあねるね。おやすみ。

上記は、中位群の学習者Bの「歴史日記」の一部である。学習者Bは、上記のように武士の立場に立って「歴史日記」を記述した。下線部⑦のように、源氏と平氏の勢力争いについて述べている。このことから、学習者Bの「歴史日記」には、「歴史的な文脈を理解する力」の表出を見取ることができる。

どうも。御家人です。それにしてもあの人  
はやっぱりすごいなあ。え？あの人  
が誰かって？そんなの源頼朝さんに決ま  
ってるじゃないですか～。なんといい  
ても、⑨平氏をほろぼしたの  
はすごかったなあ。しかも、その  
あと、武士なら一度はあこがれる  
役職「征夷大將軍」に任命され  
たんですよ!!すごいですよねえ。僕  
も頼朝さんみたいになれるよう  
にがんばらないとだなあ。あ、そ  
うだ。昨日戦いが起こって僕も参  
加したんですけどまじで相手強か  
ったですよ～。まあ戦いは無事勝  
てたから一件落着ですね。(笑)

しかも!!そのあと⑩頼朝さん  
から領土をもらったんですよ!(以下略)

上記は、中位群の学習者Cの「歴史日記」の一部である。学習者Cは上記のように御家人の立場に立って「歴史日記」を記述した。下線部⑨のように、源頼朝が平氏を滅ぼし、その後征夷大將軍に任命されたことを述べている。また、下線部⑩では、源頼朝から領土をもらったことについても述べており、鎌倉時代の特色である御恩と奉公の制度についても触れている。このことから、歴史的思考力の5項目のうち、「歴史的文脈を理解する力」の表出を見取ることができる。

1184年2月17日 冬 武士

今年はやけに温かい。近くに火があるくらい温かい。前は寒く、手がかじかんでまともに矢が的に当たらなかったのに。⑪私は内乱の時は平氏についていたが、平氏の政治がきにいらなく、今は源氏の武士としている。そろそろ弓馬の道をする時間だ。

1184年2月25日

やはり毎日弓馬の道をするのは骨が折れる。しかし、⑫土地をおくれになった頼朝様のためと考えるとやる気が出てくる。そういえば頼朝様は平氏のことをどう思っているのだろうか。

上記は、下位群の学習者Dの「歴史日記」の一部である。学習者Dは上記のように武士

の立場で「歴史日記」を記述した。下線部⑪のように、内乱を機に政治の実権を握った平氏と対立していた源氏の構図を記述している。また、下線部⑫のように、源頼朝が御家人に土地を与えたという鎌倉時代の特色を捉えている。これらのことから、歴史的思考力の5項目のうち、「歴史的文脈を理解する力」の表出を見取ることができる。

結果として、「歴史的文脈を理解する力」がすべての群の学習者の「歴史日記」の文章に表出した。このことから、「歴史日記」を記述する上で、時代が転移していく様子や、各時代の特色を理解する力が必要だと考えられる。また、上位群の学習者の「歴史日記」には、「歴史的な変化を因果的に理由付ける力」が表出した。このことから、歴史的思考の深まりが、その時代の変化や因果関係の理解を促し、さらに、その場面での立場や意見を踏まえて自分の意見を述べることにつながるのではないかと考える。

他方で、多くの学習者の「歴史日記」には歴史的実事が記述されていた。「歴史日記」作成時に史料の活用を行っていたことが予想できる。

よって以下の分析で、史料から歴史的実事を読み取っていたかどうかを明らかにしていく。

## 分析2 感想用紙の記述分析

「歴史日記」実践後に記入した感想用紙の記述分析の結果と考察を以下に示す。

私の書いた歴史日記は、あまり物語性ではなく、当時のようすを全て伝えたいと思い、主人公を貴族の妻という視点から歴史日記を書きました。(中略)このように、歴史日記を学習して、当時の人の気持ち(主人公の)になる事で、歴史への関心が高まり、⑬流れに沿うようにすることで、歴史の知識も高まり、ユーモアさや話し言葉を書いたりするのが楽しかったりで、歴史日記を書くことはいい勉強になりました。

上記は、上位群の学習者Aの感想用紙の一部である。学習者Aは上記の下線部⑬のよう



に、「歴史日記」記述時に歴史の流れを意識して書いていたことがわかる。学習者 A が記述した「歴史日記」には、下線部①～④のように、歴史の推移について記述されていた。このことから「歴史的文脈を理解する力」の表出を見取ることができる。

僕は始めに知っているのは平氏、源氏などしかよくわかりませんでした。けど、歴史日記をやったおかげで、⑭自分の考え方がわかりその時にどうすれば国を守っていけるかなどの考えが出て摂関政治から院政になったと思うしこれも良いことがあるけど悪いこともあるから、争いが起きてしまったりして、平氏と源氏が争ったりして平氏が勝って自由な政治をしたから源氏は考えて動いたんだと思うし、だからその時代にも考え方などが1人1人ちがうから、新しい政治をつくっているんだと思いました。(以下略)

上記は、中位群の学習者 B の感想用紙の一部である。学習者 B は上記の下線部⑭のように、「歴史日記」を記述したことによって、様々な立場の思想によって争いや政治の交代が起こっている、という考えをもったと記述している。実際に学習者 B の「歴史日記」には、下線部⑧のように歴史上の立場についての考えが記述されていた。このことから、「歴史的解釈を批判的に分析する力」が表出していると示唆される。

私は御家人の1日を書きました。⑮かくとくに、御家人は主にどんな事をして生活しているのか教科書や資料集だけじゃなく、スマホで調べてみたりしました。(以下略)

上記は、中位群の学習者 C の感想用紙の一部である。学習者 C は上記の下線部⑮のように、「歴史日記」を記述する際に教科書や資料集、スマートフォンを活用して、御家人について調べていたことがわかる。実際に学習者 C の「歴史日記」には下線部⑨、⑩のように歴史

的事実が記されていた。作成時に教科書や資料集を活用していたことはわかったが、史料を用いていたかどうか、史料を批判的に読んでいるかまでは判断できない。よって、「史料を批判的に読む力」の表出は見られなかったと考える。

⑯資料集や教科書をしっかり見て、教科書には載っていない職などをつかったり、ちゃんと歴史的事実や、物語、発想力もほとんどついてて、見てて、おもしろかった。(以下略)

上記は、下位群の学習者 D の感想用紙の一部である。学習者 D は下線部⑯のように、「歴史日記」記述時に教科書や資料集などを参考にしながら、歴史的事実を確認していたことが伺える。実際に学習者 D の「歴史日記」には下線部⑪、⑫のように歴史的事実が記されていた。しかし、学習者 C と同様、作成時に教科書や資料集を活用していたが、史料を批判的に読んでいるかまでは判断できない。よって、「史料を批判的に読む力」の表出は見られなかったと考える。

以上のことから、感想用紙の記述分析からは歴史的思考力の5項目のうち、「歴史的文脈を理解する力」、「歴史的解釈を批判的に分析する力」が表出した。しかし、「史料を批判的に読む力」の表出は見られなかった。

### 分析3 質問紙調査

質問紙の回答を、事前と事後それぞれの“1.当てはまらない～4.当てはまる”を1～4点として得点化、平均値を算出し、一要因参加者内の分散分析を行った。その結果、全体では5%水準で有意に向上した(次頁表6)。また、各項目で行った分析においても、5%水準で有意に向上した。

このことから、一立場から歴史的現象について考える、という活動を通して量的にも歴史的思考力の向上に与える効果があったことが推察される。

表6 質問紙調査の平均得点 (n=58)

項目	事前	事後	F 値
全 体	2.8	3.2	56.90**
1. 歴史の授業では、学ぶ目的に合った資料（今勉強している内容に関する当時の資料など）をもとに、歴史上の出来事を学んでいる。	3.4	3.6	7.11 *
2. 歴史の授業では、歴史上の出来事を学ぶとき、その出来事の原因、条件、結果やその当時の社会の様子などを考える。	2.8	3.2	33.22**
3. 歴史の授業では、歴史上の出来事について、自分なりにその出来事の価値（良いか悪いかなど）を評価（判断）して考えている。	2.8	3.1	14.87**
4. 歴史の授業では、歴史上の対立場面において、それぞれの立場を理解し、それについて自分がどう思うかを述べるができる。	2.5	3.2	29.44**
5. 歴史の授業では、歴史上の出来事に関する様々な主張の流れ、背後にある考え方などを批判的に見ている。	2.3	2.8	12.22**

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$

## 5 成果と課題

### 5.1 成果

「歴史日記」の記述分析では歴史的思考力の5項目のうち「歴史的文脈を理解する力」と「歴史的な変化を因果的に理由付ける力」の表出がみられた。

感想用紙の記述分析からは、歴史的思考力の5項目のうち「歴史的文脈を理解する力」、「歴史的解釈を批判的に分析する力」の表出がみられた。

また、質問紙調査においては、全体では5%水準で有意に向上した(表6)。また、各項目においても5%水準で有意に向上した。

以上のことから「歴史日記」の実践は歴史的思考力の5項目のうち「歴史的文脈を理解する力」と「歴史的な変化を因果的に理由付ける力」、「歴史的解釈を批判的に分析する力」の向上に効果があることが示唆された。

「歴史日記」の実践を通して、遠い時代の名もなき誰かの立場になって日記を書くことで、よりその時代についての理解や、時代の流れをつかむことができたと考える。通常の歴史の授業ではあまり取り扱わない職業によるライフスタイルの違いや、個人にフォーカスすることで、歴史的事象に対しての当時の人々の想いを想像し、改めてその事象と向き合うことができ

る実践だったと考察する。

### 5.2 今後の課題

歴史的思考力の5項目のうち「史料を批判的に読む力」、「歴史を現代に転移させる思考力」の表出が見られなかった。史料に関しては、日常の授業場面での活用や批判的に読む、という経験自体が少ないことが推察される。また、「歴史を現代に転移させる思考力」においても、小林ら(2020)<sup>(2)</sup>は、「生徒自身の生活が『歴史日記』の中に無意識的に表出されている」と述べているため、無意識的に現代に転移させ自分の生活とリンクさせている可能性がある。これに関しても今後分析方法を再考していく必要があると考える。

さらに、「歴史日記」を実践後、歴史的思考力の定義に基づく評価方法を検討し、学習者へフィードバックする方法を実践に取り入れる必要があると考える。

#### 注

(1) 文部科学省：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』、p.23、東洋館出版社、2017。

(2) 前掲書(1)、p.23。

(3) 永松靖典：『歴史的思考力を育てる—歴史

- 学習のアクティブ・ラーニング」, pp.2-14, 山川出版社, 2017.
- (4) 加藤公明:『わくわく論争!考える歴史授業』, 地歴社, 1991.
- (5) 鈴木正行:「歴史的思考力の育成をめざす戦後改革の単元開発—戦前・戦後の断絶性と連続性の視点から—」, 教育開発学論集, 3号, pp.77-88, 静岡大学大学院教育学研究科, 2015.
- (6) 池尻良平, 山内祐平:「歴史的思考力の分類と効果的な育成方法」, 日本教育工学会, 第28回国大会講演論文集, pp.495-496, 2012.
- (7) 前掲書(6), pp.495-496.
- (8) 前掲書(6), pp.495-496.
- (9) 梅津正美:「歴史的分野の授業づくり」, 『社会科教育のフロンティア—生き抜く知恵を育む—』, 原田智仁, p.139, 保育出版社, 2010.
- (10) 前掲書(6), pp.495-496.
- (11) 前掲書(6), pp.495-496.
- (12) National Center for History in the Schools ed.:『National Standards for World History』, University of California, Los Angeles, pp.17-37, 1994.
- (13) 前掲書(9), p.139.
- (14) 後藤隆浩:「生徒が主体的に歴史的思考力を培う世界史学習の在り方—『思考の方法』を定着させる手立てに着目して—」, 教師教育研究, 10号, pp.323-334, 岐阜大学教育学部, 2014.
- (15) 山路崇仁・石上靖芳:「小学校社会科歴史分野における時代の構造的な理解を促進する単元開発とその評価—歴史的思考力の育成に焦点をあてて—」, 静岡大学教育学部研究報告, 50, pp.55-70, 静岡大学大学院教育学領域, 2018.
- (16) 滝沢利直:「歴史教育における『歴史的思考力を培う』という観点についての検討」, 東京工芸大学工学部紀要, 38巻, 2号, pp.42-49, 東京工芸大学工学部, 2015.
- (17) 前掲書(5), pp.77-88.
- (18) 小林朗・木村哲郎・足立淳:「『主体的・対話的で深い学び』における『歴史日記』実践の意義に関する授業研究」, 朝日大学教職課程センター研究報告, 22号, pp.41-59, 朝日大学, 2020.
- (19) 小林朗:「ネット社会の中で孤立する中学生に歴史の楽しさを実感させる授業を」, 『社会科教育の今を問い, 未来を拓く 社会科(地理歴史科, 公民科)授業はいかにしてつくられるか』, 日本社会科教育学会, pp.14-27, 東洋出版, 2016.
- (20) 中妻雅彦:「生徒の現実にこたえる中学校歴史学習の可能性—小林朗の『歴史日記』実践を通して—」, 弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)年報 創刊号, pp.1-8, 弘前大学大学院教育学研究科, 2019.
- (21) 前掲書(18), pp.41-59.
- (22) 前掲書(20), pp.1-8.
- (23) 前掲書(19), pp.14-27.
- (24) 前掲書(18), pp.41-59.
- (25) 前掲書(19), pp.14-27.
- (26) 小川雄太・森山潤・掛川淳一:「高校歴史Aにおいて協働的に歴史的思考力の育成を図る学習支援アプリの開発と実践」, 兵庫教育大学学校教育学研究, 30巻, pp.97-106, 兵庫教育大学, 2017.
- (27) 前掲書(26), pp.97-106.
- (28) 前掲書(6), pp.495-496.
- (29) 前掲書(18), pp.41-59.

(2022年2月27日受理)